

2010年度第3四半期業績の概要

株式会社 三井住友フィナンシャルグループ

2011年1月28日

* (参考4) (6ページ)は2月25日付で追加

1. 2010年度第3四半期業績(累計)の概要

P/L

		10年度 修正予想 <期初予想> (a)	10年 4-12月 実績 (b)	前年 同期比	進捗率 (b)/(a)
(億円)					
SMBC単体	業務粗利益	15,500 <14,700>	11,556	+816	74.6%
	経費	▲7,100 <▲7,100>	▲5,221	▲86	73.5%
	<経費率>	45.8% <48.3%>	45.2%	△2.6%	
	業務純益*1	8,400 <7,600>	6,335	+730	75.4%
	与信関係費用*2	▲1,300 <▲2,200>	▲505	△1,301	38.8%
	株式等損益		▲110	▲107	
	経常利益	6,200 <4,800>	5,211	+1,909	84.0%
	当期純利益/ 四半期純利益	4,600 <3,300>	4,295	+1,796	93.4%
SMFG連結	経常利益	8,700 <6,900>	7,382	+2,902	84.9%
	当期純利益/ 四半期純利益	5,400 <3,400>	5,151	+2,673	95.4%

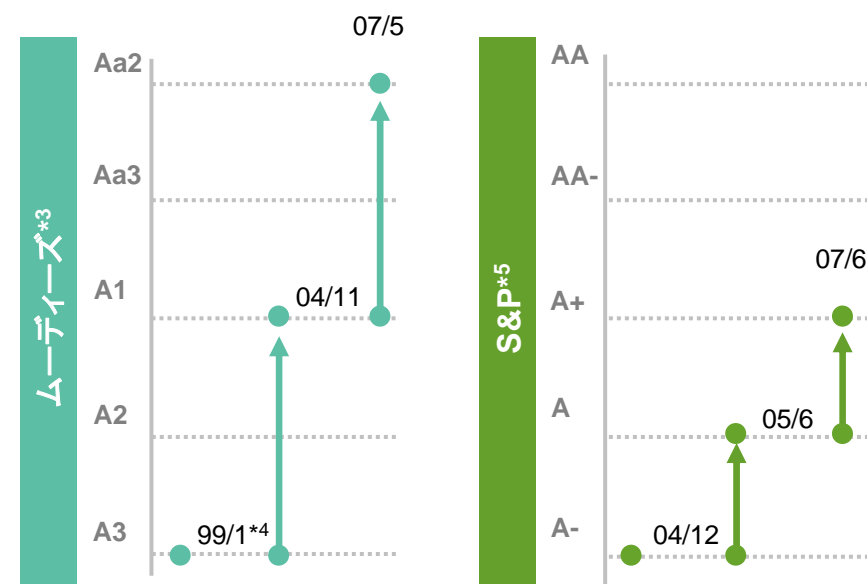
参考

国債等債券損益の状況

	上期実績	10年 4-12月 実績	前年 同期比
国債等債券損益	1,512	1,376	+978

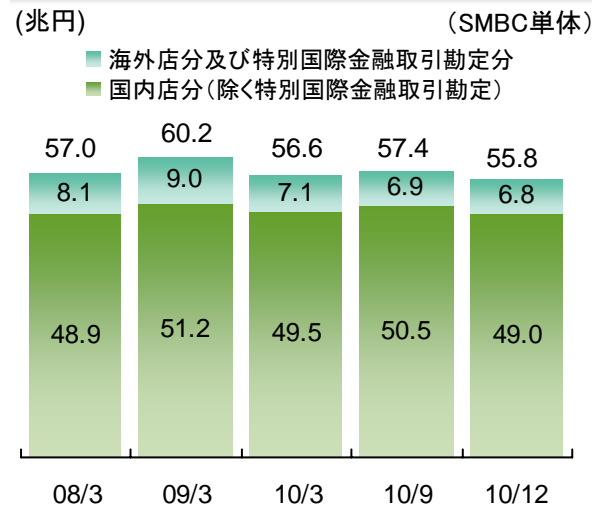
参考

格付(SMBC)

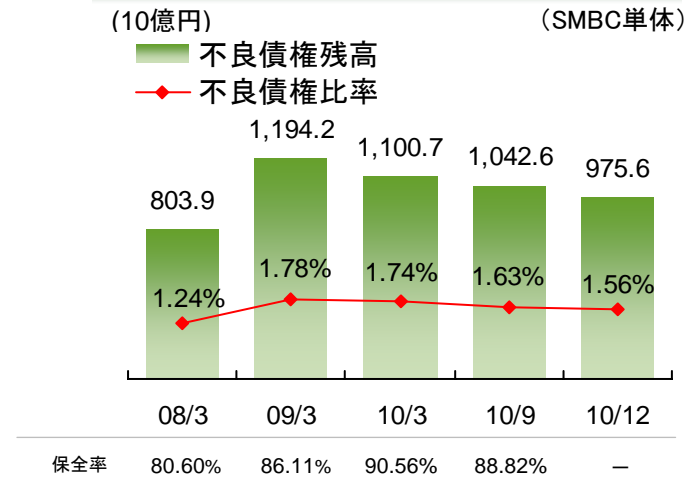


2. 2010年度第3四半期 B/S関連

貸出金残高

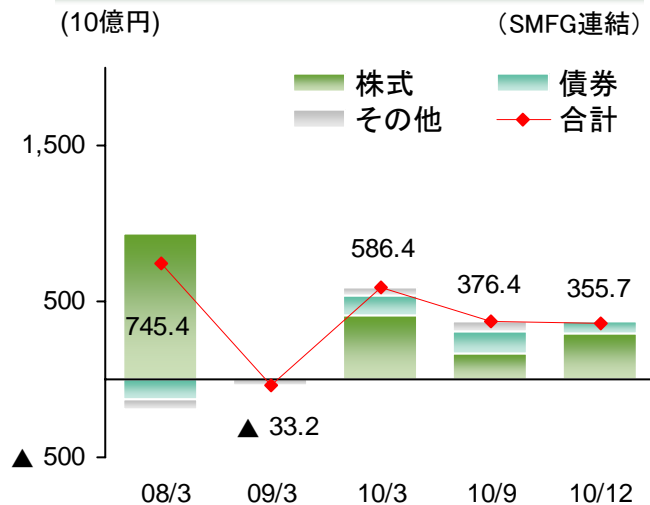


不良債権残高及び同比率*

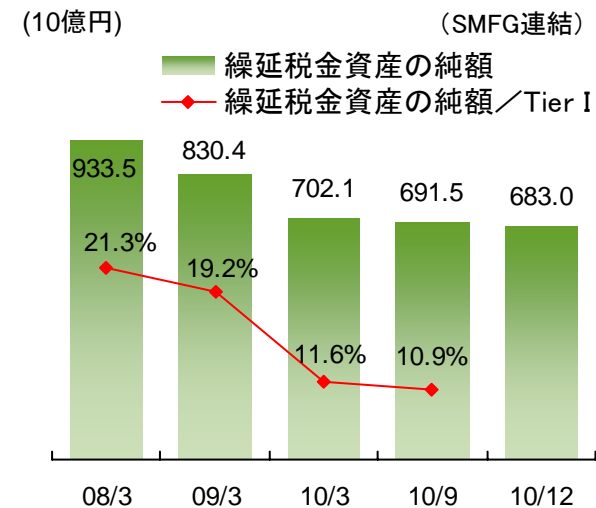


* 不良債権比率=金融再生法開示債権残高(除く正常債権)/総与信

その他有価証券評価損益



繰延税金資産純額



(参考1)2010年度経営方針

2010年度における経営方針

- ✓ 「Forward looking」
～ 変化の先を読み、新たな規制・競争環境においても着実な成長を実現する
ビジネスモデルへの転換を図る
- ✓ リスクリターン・コストリターンを重視し、
アセットクオリティの改善と経費・クレジットコストのコントロールを徹底する

成長分野への重点的な取組みによるリターンの追求

既存ビジネスの見直しによるボトムライン収益の強化

アドバイザリー機能活用による顧客対応力の更なる強化

業務プロセス改善による生産性の更なる向上

[SMFGの成長事業領域]

アジアを軸とした海外業務

法人向けソリューションビジネス／投資銀行・信託業務

ホールセール／リテール証券業務

個人向け金融コンサルティング

支払・決済・コンシューマーファイナンス

- 円滑な資金供給を図りつつ、
アセットの入れ替えによるリターンの改善／
クレジットコスト・経費の抑制に注力
- 業務計画に則った着実な収益の計上
- 保有株式にかかる株価変動リスクの削減
- NYSE上場に向けた取組み

着実な成長を実現する事業ポートフォリオの構築

強靱な資本基盤の確保

中期的には連結ROE10%程度を目指す

連結Tier I比率で10%程度以上を継続的に確保

(参考2)2010年度第3四半期業績の概要及び戦略施策の進捗

10年度第3四半期累計期間のSMBC単体の業務純益は、上期に国債等債券損益が大幅増益となっていたことを主因に、引き続き前年同期比増益を維持しました。加えて、与信関係費用の減少や日興コーディアル証券の収益寄与もあり、SMFG連結四半期純利益は前年同期比+2,673億円増益の5,151億円となりました。

強靱な資本基盤の確保

順調な業績

業務純益*1			SMBC単体
増益	前年同期比 +730億円	6,335億円	
経費率			SMBC単体
低下	前年同期比 △2.6%	45.2%	
クレジットコスト			SMBC単体
大幅な削減	前年同期比 △1,301億円	▲505億円	
四半期純利益			SMFG連結
大幅な増益	前年同期比 +2,673億円	5,151億円	

NYSE上場の実現(10/11月)

着実な成長を実現する事業ポートフォリオの構築(10/10月以降)

アジアを軸とした海外業務

拠点網拡充

- 常熟出張所(中国)開設(11/1月)
- ニューデリー駐在員事務所(インド)開設認可取得(11/1月)

提携

- RHB銀行(マレーシア)(10/12月)
- 国内地銀のお客さまの海外事業支援
関西アーバン銀行(10/11月)
三重銀行(10/12月)

ホールセール／リテール証券業務(日興コーディアル証券)

SMBCフレンド証券で行っていたSMBCとの個人向け銀証協働事業を統合(11/1月)

海外業務拡充

- ロンドン(10/10月)
- ニューヨーク(10/12月)
- 香港(11/1月)
- 上海(11/1月)

銀行代理業開始(10/10月)

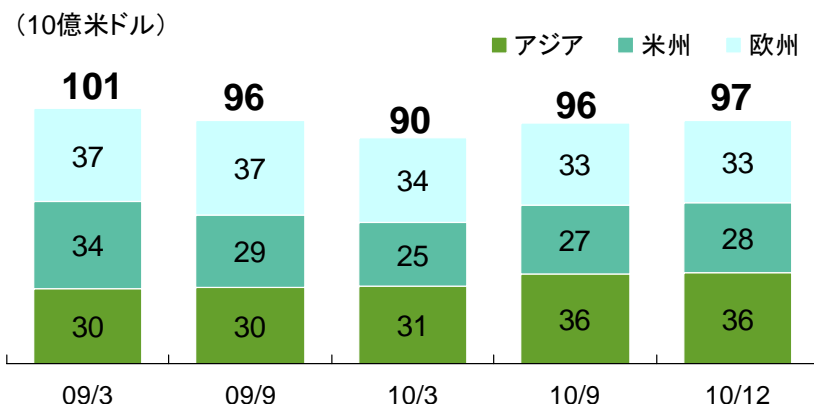
クレジットカード事業(セディナ)

完全子会社化に合意*2(11/1月) ◀ 連結子会社化(10/5月)

(参考3)海外業務／証券業務

海外業務

海外貸出金残高推移*1



強みを持つプロダクツ

投資銀行ビジネス*2	グローバル	アジア*3
シンジケートローン	9位	9位
プロジェクトファイナンス	8位	6位

決済サービス顧客アンケート調査 (アジア・パシフィック総合ランキング)*4

キャッシュ・マネジメント・サービス	大企業	4位	邦銀中、 5年連続1位
	中堅企業	4位	
	中小企業	3位	
円決済サービス		1位	5年連続1位

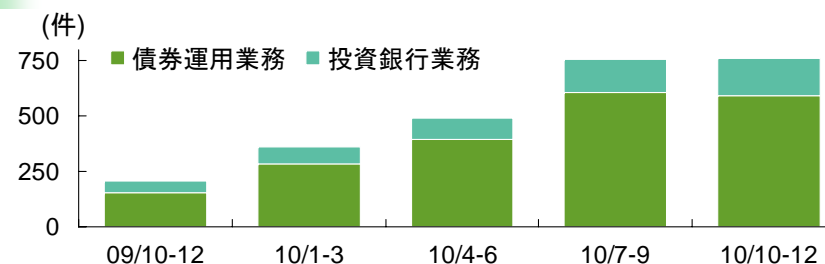
証券業務(日興コーディアル証券)

各種施策(10/4月以降)

■ ホールセール証券業務

10年	4月	個人向け金融商品仲介業務開始 国債のプライマリーディーラー資格取得
	6月	SMBC・バークレイズとプライベート・バンキング業務協働開始
	8月	エクイティの新トレーディング・システム稼動
10年	10月	ロンドンにて業務開始 銀行代理業開始
	12月	ニューヨークにて業務開始
	11年	1月

SMBCからの紹介件数



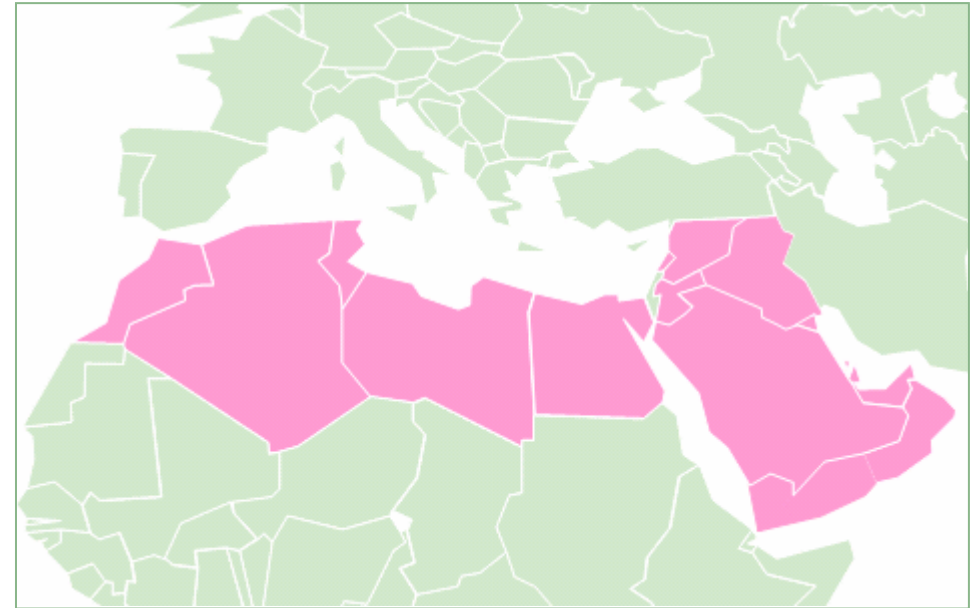
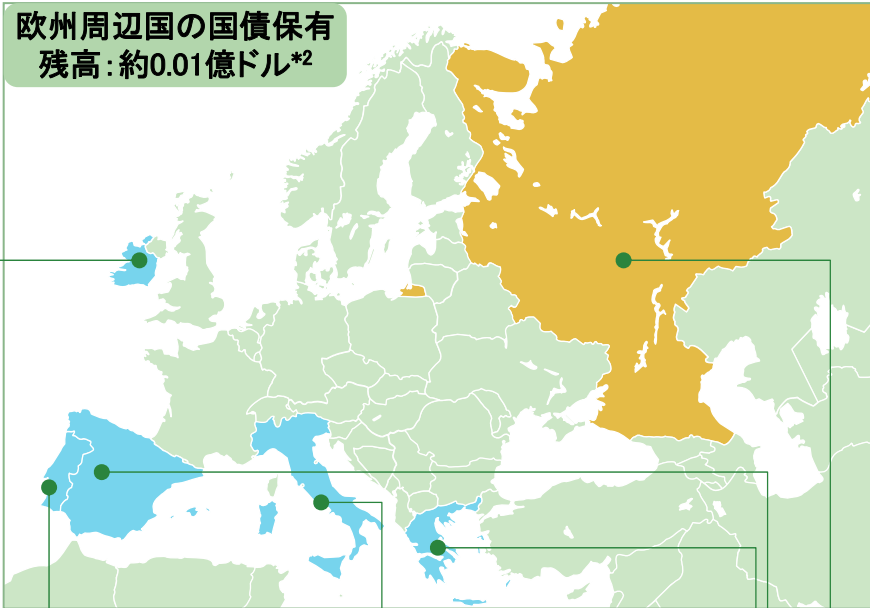
*1 行内管理ベース(各期末換算レートにて換算)。SMBC、欧州三井住友銀行及び三井住友銀行(中国)の各拠点ベース

*2 2010年実績、出所 シンジケートローン: トムソンロイター(マンデーティッド・アレンジャー・ランキング)、プロジェクトファイナンス: インフラストラクチャージャーナル(マンデーティッド・リードアレンジャー・ランキング)

*3 シンジケートローン: アジア、プロジェクトファイナンス: アジア大洋州 *4 出所: 「ASIAMONEY」誌キャッシュ・マネジメント・サービス調査10/8月号

(参考4) 欧州周辺国、ロシア、アラブ諸国向けエクスポージャー*1

欧州周辺国の国債保有
残高: 約0.01億ドル*2



ポルトガル

約1億ドル

大半が銀行向け

アイルランド

約8億ドル

大企業向け、
プロジェクトファイナンス

イタリア

約25億ドル

大企業向け、
プロジェクトファイナンス

ギリシャ

約1億ドル

大半が担保により保全

ロシア

約40億ドル

政府系、
現地大手企業向け

スペイン

約21億ドル

大企業、日系企業向け、
プロジェクトファイナンス

アラブ諸国	*3	約 90 億ドル
UAE	*4	33
うちドバイ		11
カタール	*5	23
サウジアラビア	*5	17
その他	*6	17
うちオマーン		4
うちバーレーン		4
うちエジプト		3
うちクウェート		3
うちリビア		1
うちチュニジア		0.2



本資料には、当社の財政状態及び経営成績に関する当社及び当社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収及び経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスク、不良債権残高及び与信関係費用の増加、保有株式に係るリスクなどです。こうしたリスク及び不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社は、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社の財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F、当社が公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。